

 **ゴール:** 初見の写真を、後置修飾を使って4文以上で描写できる

場面 英検・入試の面接と同形式。渡された写真の「どこに・だれが・何をしている」を英語で描き出そう。

手順: 写真を20秒観察→描写開始
使いたい形: There is/are 〜. / The boy wearing 〜 is / I can see a girl playing 〜. / The building built 〜 looks old.

準備 テストまでにすること(授業1回+ドリル)

分詞ドリル・写真展キャプションWSで後置修飾を確認。練習写真2枚でペア描写(本番は初見の写真)。

本番 時間: 1人90秒 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事!)
正確さ	分詞・関係代名詞など後置修飾の形
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	面接らしい姿勢・声・アイコンタクト

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよく使おう。

ねらい

このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	視覚情報を後置修飾を使って精密に描写する力(中3文法の運用)
なぜ必要か	分詞・関係代名詞は「読めるが話せない」最右翼。写真描写は英検準2級～2級・多くの高校入試面接の実形式であり、この評価がそのまま受験対策になる。初見の写真を使うことで、構文の本当の自動化度が測れる。

評価

ルーブリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 人物・動作・場所が具体的に伝わり、 写真が目には浮かぶ描写	B(2点)＝評価規準 4文程度で写真の主な内容が伝わった	C(1点) 単語の羅列
正確さ	A(3点) 後置修飾を2回以上正しく使用	B(2点)＝評価規準 後置修飾に挑戦し、誤りはあるが通じる	C(1点) S+Vの文が作れない
流暢さ	A(3点) 観察→即描写のテンポ	B(2点)＝評価規準 考えつつ完走	C(1点) 長い沈黙
態度	A(3点) 面接官に届ける話し方	B(2点)＝評価規準 落ち着いて話せた	C(1点) 応答放棄

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を(例: メモを見てよい・時間を短く)。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用

当日の流れ(2コマ)

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(1人90秒)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ

写真は「人が3人以上・動作が明確・服装に特徴」の3条件で選ぶと後置修飾が自然に出ます。英検3級・準2級の二次対策を兼ねる、と伝えと受験生の本気度が上がります。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。